

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第4回和文会誌分科会 開催日：6月1日。出席者：田中主査，ほか13名。

1. 15件の論文審査報告がなされ，掲載決定12件，その他3件であった。
2. 「鉄と鋼」第65年第12号(10月号)に論文14件，掲載決定した。

第4回欧文会誌分科会 開催日：6月5日。出席者：橋口主査，ほか9名。

1. 19件の論文につき審査報告がなされ，掲載可6件，照会后掲載可6件，修正依頼5件，一旦返却2件であった。

共同研究会

製鉄部会

第54回部会 開催日：5月9日～11日。出席者：鈴木部会長，ほか141名。

1. 開催場所 鋼管・京浜
2. 議事内容
 - (1) 講演2件
 - 「新日鉄におけるベル・レス高炉の操業について」(新日鉄・広畑)
 - 「海外焼結工場の計画・建設，操業について」(川鉄・本社)
 - (2) 共通議題12件
議題「高炉の低燃料比操業について」
 - ①低燃料比達成のための対策及び問題点
 - ②エネルギー面及びコスト面より見た低燃料比操業
 - ③燃料比の限界に関する考え方及び具体的な到達目標
 - (3) 自由議題4件
3. 工場見学 鋼管・京浜
4. 次回の第55回製鉄部会は本年10月東京にて開催予定

鋼板部会

第47回厚板分科会 開催日：5月24日～25日

出席者：鈴木部会長，ほか109名。

開催地 神鋼・加古川

1. 全体討議 工場操業状況
2. スタッフグループの討議
重要テーマ「加熱炉燃料原単位低減対策」発表件数22件
重要テーマ「熱処理ショット塗装設備および操業管理」

各事業所より工場レイアウトおよび要員配置，原単位設備管理，操業管理についての発表，討議が行われた。

3. 作業長グループ討議

テーマ「精整ラインにおける品質原単位低減対策」

発表件数 13件

第30回ホットストリップ分科会 開催日：5月24日
25日。出席者：谷主査，ほか84名。

開催地 新日鉄・君津

1. 工場操業成績報告 各所
 2. 共通議題「電力」 各所
 3. 自由議題
 - (1) 特殊鋼疵 ステンレス鋼圧延 6所
 - (2) 絞り関係 3所
 - (3) 幅関係 1所
 - (4) 形状関係 4所
 - (5) その他 1所
- 毎回事前質問も多く，活発な討論が行われている。

条鋼部会

第29回大形分科会 開催日：5月30日31日。出席者：

吉岡主査，ほか74名。

開催地 新日鉄・釜石

1. 工場操業状況報告 各所
2. 圧延関係を中心とした歩留向上対策 各所
3. 自由議題
 - (1) ホットチャージについて
 - (2) H形鋼のコントロールローリングについて
 - (3) 加熱炉自動燃焼制御について
 - (4) ダイレクトローリングについて
4. 工場見学
 - (1) 釜石製鉄所
 - (2) 橋野高炉

第47回線材分科会 開催日：6月6日7日。出席者：

松永主査，ほか84名。

開催地 新日鉄・君津

1. テーマ研究Ⅰ「工場操業状況」
2. テーマ研究Ⅱ「捲取機以降のコイルの疵防止対策」(コイル荷姿を含む)
3. 自由テーマ
 - (1) 省力省エネルギー関係 発表5件
 - (2) 品質歩留関係 発表4件
 - (3) 能率向上関係 発表3件

以上の発表，討論が行われた。なお今回より主査が交代した。

鋼管部会

第32回部会 開催日：5月31日，6月1日。出席者：

田中部会長，ほか160名。

開催地 第1日 新日本・光

第2日 日本鋼管・福山

1. 共通議題
「最近5ヶ年間の鋼管製造技術の進歩(前編)」についてのアンケート調査結果のまとめが発表され，質疑応答が行われた。
2. 溶接管分科会報告
最近の分科会活動の成果として，次のテーマで発表が

あつた。

「ERW 溶接現象について」

3. 自由議題

次の3件の発表が行われた。

- (1) 「継目無鋼管製造におけるSAM探傷法の適用について」
- (2) 「スパイラル成形理論とその考察」
- (3) 「溶接鋼管の残留応力について」

4. 特別議題

「新日本・八幡 シームレス鋼管工場の概要」と題して同工場の紹介が行われた。

鉄 鋼 分 析 部 会

第 34 回発光分光分析分科会 開催日：5月31日。出席者：井樋田主査，ほか 38 名。

1. 共存元素の影響調査結果について
 - 1) 最終報告書の「F X S 二元系標準試料による共存元素の影響調査結果」の説明
 - 2) 機器分析用標準試料に関する調査結果の説明
2. 高合金鋼分析共同実験について
各所より報告のあつた件数 16 件
3. 自発研究
自発研究報告として3件の説明があつた。
4. その他
今後の共同研究テーマについて討論が行われた。

耐 火 物 部 会

第 25 回部会 開催日：6月5日。出席者：太田部会長，ほか 70 名。

於 神田学生会館

今回は製鉄用耐火物をとり上げた。

1. 第1セクション「高炉炉底耐火物および解体調査関係」 発表4件
 2. 第2セクション「高炉シャフト下部耐火物関係」 発表5件
 3. 第3セクション「高炉樋関係」 発表2件
- 以上の発表および討論を行った。工場見学は今回中止した。

設 備 技 術 部 会

第 20 回圧延設備分科会 開催日：5月17日，18日。

出席者：徳光部会長，鈴木主査，ほか 119 名。

開催地 川崎重工業・神戸

今回は自由議題形式で事例発表およびレクチャ (L) を行った

- (1) 熱間圧延機ピニオンスタンドの転り軸受化について
- (2) 熱延工場ダウンコイラの改善について
- (3) 結束機について
- (4) デスケヘッド改善について
- (5) 湿式プラスト脱スケールについて (L)
- (6) 省エネルギー形熱間厚物フライイングシャーについて (L)

(7) スラグクーリングボイラについて (L)

(8) ホットランローラテーブルの表面加工について

(9) フープ工場の省エネ省力補修費低減の改善事例

(10) 熱間圧延機スタンドの自動肉盛りと切削加工について

第 6 回電気設備分科会 開催日：5月24日，25日。出席者：徳光部会長，小坂主査，ほか 106 名。

開催地 新日鉄・大分

1. メインテーマ「圧延用主機の機械的強度」
専門委員会
2. サブテーマ「高炉転炉集塵ブロワ省電力対策事例」
各所
3. 自由発表
各所
 - (1) 速度制御系の周波数特性のオンライン測定について
 - (2) 福山第3分塊のライザ切損事故について
 - (3) マグアンプの特異現象について
 - (4) 共通予備品の集中管理について
 - (5) 作動油によるケーブル劣化について
 - (6) 連続亜鉛メッキライン亜鉛溶解槽用低周波誘導炉の湯漏れ事故について
 - (7) 屋外キュービクルの碍子汚損防止について

ク リ ー プ 委 員 会

昭和 54 年委員会 開催日：4月20日。出席者：田村委員長，ほか 24 名。

議事に先立ち田村委員長の新任の挨拶が行われ，ついで欠員となつていた高温クリープ，疲労試験分科会の主査に大谷隆一氏 (京大) が就任したことが紹介され，同氏の挨拶が行われた。議事に入り以下の議題について，予算決議については事務局より事業報告および事業計画については各主査からそれぞれ報告並びに説明がありいづれも承認された。

1. 昭和 53 年度クリープ委員会収支決算および 54 年度収支予算について
2. 53 年度事業報告および 54 年度事業計画について
 - (1) 高温クリープ・疲労試験：(大谷主査)
 - (2) 高温引張試験：((兼)田村主査)
 - (3) 高温熱疲労試験：(雑賀主査)
 - (4) データシート作成：(横井主査)
 - (5) 金材技研クリープデータシート作成：(田中主査)

なお，運営上の問題点を幹事会で解決することにした。

第 6 回高温クリープ疲労試験分科会 開催日：6月7日。出席者：大谷主査，ほか 27 名。

第1回共同研究「ひずみ範囲分割法にもとづく高温低サイクル疲労寿命の評価」実施に関するアンケート回答 (53年10月締切) によれば，全体として約 14 機関の参加申し出があつた。これをもとに 54 年2月の小委員会でも共通試験実施に参加されるかどうか再度確認することとなり，このアンケートを3月実施した。今回の分科会は，今後の分科会活動に関する確認およびアンケート (第2回アンケート) 回答集計結果について，並びに共同研究第1回共通試験実施方法について審議が行われた。

その結果、共通試験参加アンケート結果による分担案につき試験機関を17ヶ所と決め、これら委員会社の承認が得られた。実施方案のうちO-testについては表1の試験条件を変更することになり、ひずみ速度の変化を各機関ごとに実施し易いように多少の変更を認めることとなった。供試材は、大同特殊鋼の特別の配慮によりSUS304を使用することとし、6月末までに各実施機関に手配をお願いすることとなった。

第1回高温引張試験分科会 開催日：4月20日。出席者：田村主査(兼)、ほか17名。

前回議事録の確認が行われ、以下の議題について審議が進められいずれも了承され小委員会で取りまとめることとなった。

1. 共通高温引張試験実施に関するアンケート回答集計結果および事例調査結果の報告について

問題点4について、(1)代表的な耐熱鋼、耐熱合金の引張試験時に加工硬化がおこらなくなる臨界温度を測定するための共通試験を実施した方がよいか。(2)共通試験を実施する場合参加をお願いできるか。(3)共通試験を実施する場合供試材として取り上げたい鋼種。(4)共通試験方法とかその他気付いた点に関し参加機関25機関のうち17機関から回答があり共通試験に参加できると答えたところは14機関であった。

次に高温引張試験における不規則な荷重-伸び曲線を示す場合の降伏点又は耐力の求め方についての事例調査については10機関より提出があった。

特定基礎研究会

原料炭の基礎物性部会

第4回部会 開催日：4月19日。出席者：木村部会長ほか25名。

1. 開催場所 経団連会館 902 会議室
2. 議事概要
 - (1) 研究経過の報告並びに討議

竹下委員(九大)、大内委員(北大)

大谷委員(東北大)、館委員(東大)

- (2) 54年度研究費予算について事務局より説明
- (3) その他

スラグの有効利用に関する基礎研究部会

第8回部会 開催日：5月14日。出席者：松下部会長、ほか22名。

今回から新たに講演を依頼することとなり、神鋼・小林氏と新日鉄・沼田氏による講演が行われ、また各WGで研究発表、討論が行われた。

1. 講演「日本と欧米におけるスラグの資源化の現状」について
2. 高炉WG 発表件数 9件
3. 転炉WG 発表件数 9件
4. 有効利用WG 発表件数 1件

鉄鋼標準試料委員会

第54回常任委員会 開催日：5月23日。出席者：大槻幹事、ほか9名。

I 標準値の決定

炭素鋼シリーズ(023, 030, 050, 066)の4鋼種の標準値を決定

II 析出物抽出用標準試料、高純度鉄試料WG
再新鋼種の製造方法、標準値決定方法、成績様式などを審議した。

第55回委員会 開催日：5月23日。出席者：大槻幹事、ほか14名。

I 常任委員会報告

1) 鋼種名変更

低合金鋼シリーズ(旧検量線専用鋼)

2) 炭素鋼シリーズ標準値

3) 析出物抽出用、高純度鉄標準試料WGの進捗状況

II 昭和53年度決算報告の承認